令和５年度通学路安全対策推進モデル地域研究事業の取組

久万高原町教育委員会

１　取組の目的

通学路における交通安全教育の充実を図るとともに、道路管理者、警察、地域住民、学校及び教育委員会などの関係機関が連携・協働する体制を整備し、通学路における児童生徒の安全確保に向けた対策を推進する。

２　取組の内容

愛媛県から「通学路安全対策推進モデル地域研究事業」の委託を受け、各学校での安全教育の取組内容や学校間の連携について指導・助言をいただき、事業を実施していくため、「久万高原町通学路安全推進委員会」を設置した。

第１回久万高原町通学路安全推進委員会では、「通学路安全対策推進モデル地域研究事業」の概要、教育委員会や各学校の事業計画について説明を行うとともに、各学校の通学路等安全点検が必要な箇所について、情報共有及び対策の検討をインターネット地図情報を活用して実施した。

第２回久万高原町通学路安全推進委員会では、教育委員会や各学校の取組報告を行い、通学路における児童生徒の安全確保に向けた効果的な対策を、町内で共有することができた。

⑴　久万高原町通学路安全推進委員会の設置・開催

第１回 久万高原町通学路安全推進委員会〔令和５年７月 28 日（金）〕

第２回 久万高原町通学路安全推進委員会〔令和５年 12 月 26 日（火）〕

ア　久万高原町通学路安全推進委員会委員 18 名

学識経験者	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授
行政関係者	松山河川国道事務所 道路管理第二課 係長
	愛媛県中予地方局 建設部建設課 課長
	愛媛県久万高原警察署 交通課 課長
交通安全団体関係者	久万高原交通安全協会 久万支部 支部長
小中学校　校長	久万小学校長　明神小学校長　畑野川小学校長 直瀬小学校長　父二峰小学校長　久万中学校長
小中学校　保護者代表	久万小学校ＰＴＡ会長　明神小学校ＰＴＡ会長 畑野川小学校ＰＴＡ会長　直瀬小学校ＰＴＡ会長 父二峰小学校ＰＴＡ会長　久万中学校ＰＴＡ会長
地域代表	久万高原町交通安全協会　支部長

イ　通学路安全推進連絡協議会・安全点検の実施〔令和５年７月 28 日（金)〕

久万地区の通学路危険箇所の確認を行うため、道路管理者・警察・学校及び町教育委員会等の担当者による通学路安全推進連絡協議会を開催した。

⑵　道路管理者及び警察による通学路安全対策

【対策内容】

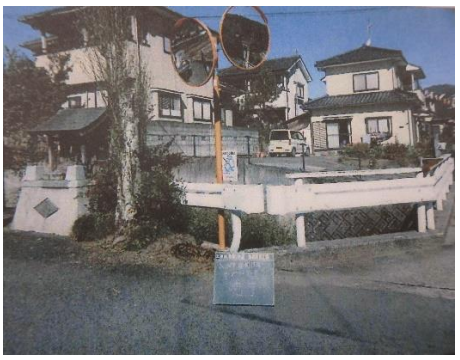
○横断歩道・白線の設置（道路管理者対応）

対策前

対策後

○カーブミラーの設置（道路管理者対応）

対策前



対策後

ウ　教職員通学路安全教育研修会

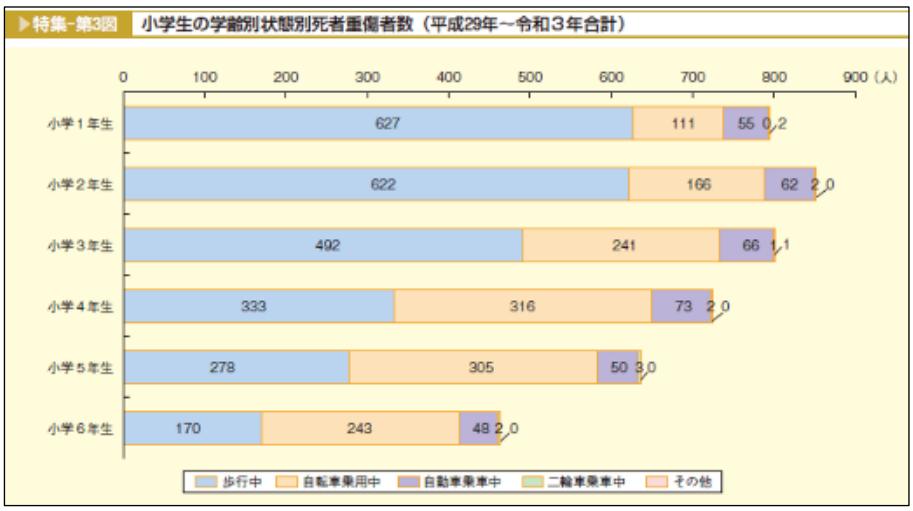
町内の小中学校において、児童生徒に対する通学路安全教育の充実を図るため、専門家による教職員対象の通学路安全教育研修会を実施した。

受講者　　町内各小中学校教職員　20 名
講　師　　愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授
演　題　　通学路の交通安全対策について

⑶　久万高原町立久万小学校（拠点校）における実践　**第５学年の授業実践**

ア　小学生の交通事故の状況について

まず、小学生の交通事故の状況について学習した。内閣府交通安全白書「通学路等における交通安全の確保及び飲酒運転の根絶に係る緊急対策について」を資料とし、小学生の死傷者数、事故状況、年齢帯、状況別要因等について理解を深めた。児童は、死傷者や事故件数の多さに驚くとともに、事故は自分の生活の身近な場所で起こることが多いことを知り、関心がより高まった様子であった。



【内閣府 HP より抜粋】

イ　通学路における危険箇所について

続いて、児童の安全への意識の更なる向上を図るため、通学路上に見られる危険箇所を題材としたクイズを行った。その際、交差点や見通しの悪いＴ字路、道幅の狭い商店街等にどのような危険が潜んでいそうか、どのような要因で事故になりそうかについて話し合った。児童は、歩行者の飛び出しや左右の確認不足、２列になることでの車道へのはみ出し等、これまでの経験から危険を予想し、意欲的に意見交換を行っていた。中には、地域特有の凍結時の事故や除雪後の歩道の危険性について考えたり、無謀な運転をする自動車がいた時の危険性について意見したりする児童も見られ、児童の安全意識の高まりを感じることができた。

ウ　児童による通学路危険箇所調査

学習後、通学路における危険箇所についての調査を行った。児童が自身の通学路を実際に歩き危険が潜んでいるかもしれないと感じた箇所をタブレット端末で撮影していった。通学路が多岐にわたるため様々な情報が集まったが、どこでどのような危険がありそうかを共有し情報交換することで、広範囲の危険箇所について考えることができた。また、歩行中に危険な箇所だけでなく、自転車の搭乗時に気を付けたい箇所や、中には、自動車の運転者目線で危険だと思われる箇所を見付けた児童もおり、通学路の安全についてより広く考えることができたと感じる。

その後、集めた資料をもとに、ロイロノートを使って危険箇所カードを作成した。各自が調査した箇所についてカードにまとめ、それを全員で共有することで広範囲の危険箇所について知ることができた。

【児童が作成した危険箇所カード】

エ　デジタル安全マップ作り

作成したカードを共有し、児童各自が必要なカードを選定してデジタルマップ作りを行った。同じ箇所のカードでも作成者によって視点や啓発メッセージが違うため、それぞれの児童が自分のマップに合うものを選んだ。そして、「Google Map マイマップ」を使用し、児童各自が独自のデジタル安全マップを作成した。自分だけのオリジナルマップを作成するとあって、児童の関心・意欲は高く、まとめの活動としては非常に効果的なものになったと考える。また、ＵＲＬを共有することで友達の作成した安全マップを閲覧することもでき、幅広く活用できる安全マップが完成した。

【デジタル安全マップ作成の様子】

3　取組の成果と課題

⑴　成果

○　「久万高原町通学路安全推進委員会」の設置により、道路管理者、警察、学校及び教育委員会等の関係機関の情報交換ができ、各機関との連携強化につながった。

○　教職員や児童生徒に対しては、研修会や安全教育等を実施することにより、通学路における交通安全に対する意識の向上を図ることができた。

これらの取組を推進委員会に報告することで、モデル地域はもとより、それ以外の地域にも成果を普及していくこととしている。

⑵　課題

●　「久万高原町通学路安全推進委員会」の委員から、道路幅が狭く歩道がない道路の対応など、根本的な解決が不可能な危険箇所について、児童生徒に対して安全の確保をどのように指導していくのか、という課題があがった。

こうした課題を解決していくために、今後も継続して通学路における児童生徒の安全確保のため関係機関が連携して取り組んでいくとともに、すべての教職員に対して教育委員会が実施する交通安全の取組について、周知を行う体制を整備していく必要がある。

4　今後の取組の見通し

ハード面については、今後も道路管理者・警察・地域住民・学校及び教育委員会等の関係機関が連携し、通学路安全対策を継続し実施していく。

ソフト面について、安全教育の推進のため、教職員への研修会の開催などを継続して実施できるよう取り組んでいく。

また、今回の「通学路安全対策推進モデル地域研究事業」で、作成した通学路安全マップの更新を行っていくことにより、児童生徒の交通安全に関する意識の向上に努めていく。